

科目名	トリミング基礎実習		担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 ・ 有壁 和 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(30) 後期(60)	時間(単位)	180(6)	
概要	トリミングの基礎を身に付ける					
テキスト等	実習器具 トリミング学 I テキスト 犬体モデル					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト技術力作品 レポート	20%				
	授業態度	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ		講義内容		
	1	ガイダンス 1		トリミング実習時の身だしなみ		
	2	ガイダンス 2		実習器具名前つけ犬体モデル配布 ブラッシング練習		
	3	ガイダンス 3		実習室の掃除と消毒法 キャリーケース消毒法		
	4	ガイダンス 4		ウィッグのブラッシング シザー練習		
	5	ガイダンス 5		トリミング実習前の準備 掃除の実践		
	6	ガイダンス 6		ブラッシング練習 綿棒の作り方		
	7	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法1		
	8	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法2		
	9	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法3		
	10	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法4		
	11	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法5		
	12	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法6		
	13	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法7		
	14	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法8		
	15	基礎実習 ステップ1		グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法9		

	講義テーマ	講義内容
授業進行	16 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法10
	17 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法11
	18 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法12
	19 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法13
	20 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法14
	21 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法15
	22 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法16
	23 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法17
	24 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法18
	25 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法19
	26 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法20
	27 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法21
	28 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法22
	29 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法23
	30 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法24
	31 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法25
	32 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法26
	33 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法27
	34 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法28
	35 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法29
36 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法30	
37 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法31	

	講義テーマ	講義内容
授業進行	38 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法32
	39 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法33
	40 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法34
	41 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法35
	42 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法36
	43 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法37
	44 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法38
	45 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法39
	46 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法40
	47 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法41
	48 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法42
	49 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法43
	50 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法44
	51 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法45
	52 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法46
	53 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法47
	54 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法48
	55 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法49
	56 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法50
	57 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法51
58 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法52	
59 基礎実習 ステップ1	グルーミング作業 犬の保定 器具の使用法53	
60 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業1	

	講義テーマ	講義内容
授業進行	61 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業2
	62 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業3
	63 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業4
	64 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業5
	65 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業6
	66 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業7
	67 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業8
	68 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業9
	69 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業10
	70 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業11
	71 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業12
	72 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業13
	73 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業14
	74 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業15
	75 基礎実習 ステップ2	一人で行うグルーミング作業16
	76 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング1
	77 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング2
	78 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング3
	79 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング4
	80 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング5
	81 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング6
82 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング7	
83 基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング8	

		講義テーマ	講義内容
授業進行	84	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング9
	85	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング10
	86	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング11
	87	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング12
	88	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング13
	89	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング14
	90	基礎実習 ステップ3	ボディクリッピング15

科目名	学外現場実習Ⅱ		担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(50) 後期(-)	時間(単位)	100(3)	
教育の狙い	学校で修得した知識や技術を基に、技術者としての役割や責任を理解し、実務能力を修得する					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	実習先での評価を基に総合的に評価 実習前オリエンテーションの実施 施設により実習内容は変更になる場合があります			
	定期試験	%				
	小テスト・技術力・作品	%				
	レポート	50%				
	授業態度	30%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	2		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	3		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	4		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	5		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	6	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	7		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	8		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	9		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	10		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	11	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	12		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	13		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	14		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	15		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	16	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	17		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	18		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	19		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	20		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	21	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	22		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	23		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	24		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	25		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	26	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	27		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	28		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	29		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	30		1日の振返り(自宅にてレポート作成)			
	31	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	32		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	33		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	34		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
35	1日の振返り(自宅にてレポート作成)					

授業進行	36	企業実習	企業における専門職の役割を理解する
	37		企業を見学し、施設や設備を理解する
	38		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する
	39		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する
	40		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)
	41	企業実習	企業における専門職の役割を理解する
	42		企業を見学し、施設や設備を理解する
	43		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する
	44		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する
	45		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)
	46	企業実習	企業における専門職の役割を理解する
	47		企業を見学し、施設や設備を理解する
	48		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する
	49		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する
	50		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)

科目名	セラピー犬ハンドラー育成実習 I	担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(30) 後期(30)	時間(単位)	120(4)
概要	国際セラピードッグ協会、大木トオル先生による講習会を通してセラピードッグ、動物介在療法の基本を学ぶ				
テキスト等	筆記用具、実習着着用				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	%			
	レポート	20%			
	出席状況	20%			
	授業進行		講義テーマ	講義内容	
1		ガイダンス-1	授業の流れ説明・セラピードッグについて(ビデオ鑑賞)		
2					
3		大木先生リモート講習会	大木先生リモート講習会 VOICE・HAND・BODY・PRAIS CALLについて		
4					
5		大木先生講習会	セラピードッグの世界-1カリキュラム(前半-1)		
6					
7		大木先生講習会	セラピードッグの世界-2カリキュラム(前半-2)		
8					
9		CALL MANNERS-1	VOICE・HAND・BODY・PRAIS CALLの応用		
10					
11		CALL MANNERS-2	セラピードッグに対しCALLの実践		
12					
13		STANDARD MANNERS-1	part1-NECK CHEK・HEEL		
14					
15		STANDARD MANNERS-2	part1-LAY DOWN		
16					
17		STANDARD MANNERS-3	part1-STAY		
18					
19		STANDARD MANNERS-4	part1-UP CALL(1.2.3)		
20					

		講義テーマ	講義内容
授業進行	21	STANDARD MANNERS 関連動作-1	セラピードッグ動作発表-1
	22		
	23	STANDARD MANNERS 関連動作-2	セラピードッグ動作発表-2
	24		
	25	WALKING MANNERS-1	LINE MANNERS・WALK・THROTTLE
	26		
	27	WALKING MANNERS-2	LINE MANNERS・GALLOP・SLOW
	28		
	29	中間試験	part1-全科目試験
	30		
	31	大木先生講習会	ジュニアハンドラー認定part1試験-1
	32		
	33	大木先生講習会	ジュニアハンドラー認定part1試験-2
	34		
	35	ジュニアハンドラーpart1	ジュニアハンドラー認定復習-1
	36		
	37	ジュニアハンドラーpart1	ジュニアハンドラー認定復習-2
	38		
	39	ジュニアハンドラーpart2	ジュニアハンドラー認定part2対策-1
	40		
	41	ジュニアハンドラーpart2	ジュニアハンドラー認定part2対策-2
	42		
	43	ジュニアハンドラーpart2	ジュニアハンドラー認定part2対策-3
	44		
	45	ジュニアハンドラーpart2	ジュニアハンドラー認定part2対策-4
	46		
	47	ジュニアハンドラーpart2	ジュニアハンドラー認定part2対策-5
	48		
	49	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-1
	50		

		講義テーマ	講義内容
授業進行	51	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-2
	52		
	53	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-3
	54		
	55	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-4
	56		
	57	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-5
	58		
	59	ジュニアハンドラーpart2	介在療法、活動(模擬練習)-6
	60		

科目名	家庭犬適性飼養実習Ⅱ-B	担当講師 (実務経験)	新出 陽子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(1)
概要	基本的訓練技術を身につける				
テキスト等	実習着着用				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	%			
	レポート	20%			
	出席率	20%			
	授業進行	講義テーマ			
1	訓練デモ、説明	授業内容説明			
2	訓練説明&実技 1	訓練の知識・技術を身につける①			
3	訓練説明&実技 2	訓練の知識・技術を身につける②			
4	訓練説明&実技 3	訓練の知識・技術を身につける③			
5	訓練説明&実技 4	訓練の知識・技術を身につける④			
6	訓練説明&実技 5	訓練の知識・技術を身につける⑤			
7	訓練説明&実技 6	訓練の知識・技術を身につける⑥			
8	訓練説明&実技 7	訓練の知識・技術を身につける⑦			
9	訓練説明&実技 8	訓練の知識・技術を身につける⑧			
10	訓練説明&実技 9	訓練の知識・技術を身につける⑨			
11	訓練説明&実技 10	訓練の知識・技術を身につける⑩			
12	訓練説明&実技 11	訓練の知識・技術を身につける⑪			
13	訓練説明&実技 12	訓練の知識・技術を身につける⑫			
14	訓練説明&実技 13	訓練の知識・技術を身につける⑬			
15	定期試験対策	まとめ			

科目名	家庭犬適性飼養学Ⅱ-B	担当講師 (実務経験)	新出 陽子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	ペットライフ学科	年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	訓練士に求められる技術や知識について幅広く学ぶ				
テキスト等	JKC基本訓練マニュアル				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 レポート	20%			
	授業態度	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	授業の説明	授業内容の説明		
	2	訓練の重要性 1	訓練をしておくことで回避できる可能性が上がるトラブル①		
	3	訓練の重要性 2	訓練をしておくことで回避できる可能性が上がるトラブル①		
	4	作業訓練	各作業犬について		
	5	災害に備える 1	災害に備えてしておくべき訓練と準備①		
	6	災害に備える 2	災害に備えてしておくべき訓練と準備①		
	7	ドッグスポーツ	フリスビードッグやアジリティドッグなどドッグスポーツについての説明		
	8	イベント①	イベントの開催・準備・運営について①		
	9	イベント②	イベントの開催・準備・運営について②		
	10	イベント③	イベントの開催・準備・運営について③		
	11	様々な訓練方法①	各訓練方法と使い分けについて①		
	12	様々な訓練方法②	各訓練方法と使い分けについて②		
	13	訓練方法の説明について①	具体的な訓練方法の説明①		
	14	訓練方法の説明について②	具体的な訓練方法の説明②		
15	テスト対策	前期テスト対策			

科目名	動物介護学	担当講師 (実務経験)	伊藤 航 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	動物福祉コーディネーターとして高齢犬・猫の介護について理解する				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	概論	介護ケアとは・高齢犬、高齢猫と暮らすうえでの心構え		
	2	高齢犬 1	食餌の介助・介護食		
	3	高齢犬 2	食餌介助の問題点		
	4	高齢犬 3	睡眠介助		
	5	高齢犬 4	褥瘡予防		
	6	高齢犬 5	歩行介助		
	7	高齢犬 6	歩行介助の問題点		
	8	高齢犬 7	排泄介助		
	9	高齢犬 8	排泄介助の問題点		
	10	事例相談	事例に基づき改善方法を考える		
	11	高齢猫 1	行動変化と飼育環境整備		
	12	高齢猫 2	食餌の介助・介護食		
	13	高齢猫 3	食餌介助の問題点		
	14	高齢猫 4	睡眠介助		
15	高齢猫 5	睡眠介助の問題点			

科目名	動物介在・ボランティア活動	担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(15)	時間(単位)	60(2)
概要	セラピードッグ達と共に施設・リモートでの活動を通して実技体験を学ぶ				
テキスト等	筆記用具、実習着着用				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	%			
	レポート	20%			
	出席状況	20%			
	授業進行	講義テーマ			
1	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-1(講話/実技/年間計画)			
2	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-2(講話/実技/年間計画)			
3	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-3(講話/実技)			
4	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-4(講話/実技)			
5	リモート活動	第1回 リモート活動にて実技発表			
6	訪問活動	第1回 訪問活動施設にて実技発表			
7	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-5(講話/実技)			
8	リモート活動	第2回 リモート活動にて実技発表			
9	訪問活動	第2回 訪問活動施設にて実技発表			
10	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-5(講話/実技)			
11	訪問活動	第3回 訪問活動施設にて実技発表			
12	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-6(講話/実技)			
13	リモート活動	第3回 リモート活動にて実技発表			
14	訪問活動	第4回 訪問活動施設にて実技発表			
15	訪問・リモート活動	訪問・リモート活動について-7(講話/実技)			

	講義テーマ	講義内容
授業進行	16	リモート活動 第4回 リモート活動にて実技発表
	17	訪問活動 第5回 訪問活動施設にて実技発表
	18	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-8(講話/実技)
	19	リモート活動 第5回 リモート活動にて実技発表
	20	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-9(講話/実技)
	21	訪問活動 第6回 訪問活動施設にて実技発表
	22	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-10(講話/実技)
	23	リモート活動 第6回 リモート活動にて実技発表
	24	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-11(講話/実技)
	25	訪問活動 第7回 訪問活動施設にて実技発表
	26	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-12(講話/実技)
	27	訪問活動 第8回 訪問活動施設にて実技発表
	28	訪問・リモート活動 訪問・リモート活動について-13(講話/実技)
	29	訪問活動 第9回 訪問活動施設にて実技発表
30	総括 訪問・リモート活動まとめ	

科目名	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅱ	担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (■前期 ・ ■後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 ■実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(15)	時間(単位)	60(2)
概要	1年生で学んだ基本動作から実践的な応用動作(訪問・リモート体験)を学ぶ				
テキスト等	筆記用具、実習着着用				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品	%			
	授業態度				
	レポート	20%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	CALL/STANDARD	1年生の復習-1 ・現場実習について-1.活動内容		
	2	WHEEL CHAIR MANNERS	認定試験 partⅡに向けて-1		
	3	WHEEL CHAIR MANNERS	認定試験 partⅡに向けて-2		
	4	訪問・リモート、実技	訪問・リモート活動について-4(講話/実技)		
	5	リモート実技	第1回 リモート活動にて実技発表		
	6	訪問活動	第1回 訪問活動施設にて実技発表		
	7	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-5(講話/実技)		
	8	リモート活動	第2回 リモート活動にて実技発表		
	9	訪問活動	第2回 訪問活動施設にて実技発表		
	10	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-5(講話/実技)		
	11	訪問活動	第3回 訪問活動施設にて実技発表		
	12	認定試験/講習会について	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅱ強化実技-1		
	13	認定試験/講習会について	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅱ強化実技-2		
	14	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-6(講話/実技)		
15	リモート実技	第3回 リモート活動にて実技発表			

	講義テーマ	講義内容	
授業進行	16	訪問活動	第4回 訪問活動施設にて実技発表
	17	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-7(講話/実技)
	18	リモート活動	第4回 リモート活動にて実技発表
	19	訪問活動	第5回 訪問活動施設にて実技発表
	20	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-8(講話/実技)
	21	リモート活動	第5回 リモート活動にて実技発表
	22	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-9(講話/実技)
	23	訪問活動	第6回 訪問活動施設にて実技発表
	24	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-10(講話/実技)
	25	リモート活動	第6回 リモート活動にて実技発表
	26	訪問・リモート実技	訪問・リモート活動について-11(講話/実技)
	27	訪問活動	第7回 訪問活動施設にて実技発表
	28	認定試験について	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅱ強化実技-3
	29	認定試験について	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅱ強化実技-4
	30	訪問・リモート実技まとめ	訪問・リモート活動年間実績について

科目名	家庭犬適性飼養実習Ⅱ-A	担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (■前期 ・ ■後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 ■実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(30) 後期(30)	時間(単位)	120(4)
概要	しつけ教室の実技を通してペットライフインストラクターの資格取得を目指す(前期座学とテーマ同じ)				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 レポート	20%			
	授業態度	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	基礎の見直し 1	オスワリ、マテ、フセ、オイデの反復練習 1		
	2	基礎の見直し 2	オスワリ、マテ、フセ、オイデの反復練習 2		
	3	基礎の見直し 3	オスワリから脚側歩行での制御 1		
	4	基礎の見直し 4	オスワリから脚側歩行での制御 2		
	5	パピークラスの構成 1	犬の生活ノートについて・ポスター制作		
	6	パピークラスの構成 2	犬の生活ノートについて・ポスター制作		
	7	パピークラスの構成 3	ポスター制作・配布		
	8	パピークラスの構成 4	応用動作・しつけでゲーム 1		
	9	パピークラスの構成 5	応用動作・しつけでゲーム 2		
	10	パピークラスの構成 6	基本動作(オスワリ・マテ・オイデ、他)		
	11	第1回パピークラス (全3回-1)	基本動作(オスワリ・マテ・オイデ、他)		
	12	パピークラスの構成 7	応用動作(脚側歩行、他)		
	13	第1回パピークラス (全3回-2)	応用動作(脚側歩行、他)		
	14	パピークラスの構成 8	しつけでゲーム		
15	パピークラス (全3回-3)	しつけでゲーム			

	講義テーマ	講義内容
	16 パピークラス振り返り	成果と課題
	17 しつけ教室の構成 1	犬の生活ノートについて・ポスター制作
	18 しつけ教室の構成 2	犬の生活ノートについて・ポスター制作
	19 しつけ教室の構成 3	ポスター制作・配布
	20 しつけ教室の構成 4	応用動作・しつけでゲーム 1
	21 しつけ教室の構成 5	応用動作・しつけでゲーム 2
授業進行	22 第1回犬のしつけ教室開催 (全3回-1)	現代社会における犬の役割・しつけ教室、基本動作(オスワリ・マテ・オイデ、他)
	23 テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 1	イヌのコミュニケーションと学習
	24 第1回犬のしつけ教室開催 (全3回-2)	しつけ教室、応用動作(脚側歩行、他)
	25 テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 2	リーダーシップ・しつけでゲーム
	26 第1回犬のしつけ教室開催 (全3回-3)	イヌのストレスを解消する・しつけ教室、しつけでゲーム
	27 第1回犬のしつけ教室振り返り	成果と課題
	28 テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 3	服従訓練
	29 テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 4	しつけと行動矯正
	30 テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 5	問題犬矯正のための道具箱
	31 犬の運動会-1	犬の運動会の目的-1
	32 犬の運動会-2	犬の運動会の目的-2
	33 犬の運動会-3	犬の運動会の運営-1
	34 犬の運動会-4	犬の運動会の運営-2
	35 犬の運動会-5	犬の運動会の準備-1
	36 犬の運動会-6	犬の運動会の準備-2
	37 犬の運動会-7	犬の運動会の実践-1
	38 犬の運動会-8	犬の運動会の実践-2

科目名	後期	講義テーマ	講義内容
		39	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 6
	40	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 7	無駄吠えの矯正法
	41	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 8	掘る、齧る、跳びつく
	42	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 9	子犬と成犬のトイレのしつけ
	43	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 10	犬の攻撃性を理解し認識する
	44	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 11	臆病なイヌを人に慣らす
	45	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 12	子供と犬
	46	第2回犬のしつけ教室 (全3回-1)	応用動作の強化・しつけでゲーム・しつけ教室 基本動作(オスワリ・マテ・オイデ、他)
	47	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 13	新し犬が加わる
	48	第2回犬のしつけ教室 (全3回-2)	インストラクターとコンサルタントのための効果的コミュニケーションの技法・しつけ教室、応用動作(脚側歩行、他)
	49	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 14	新し犬が加わる
	50	第2回犬のしつけ教室 (全3回-3)	応用動作の強化・しつけでゲーム・飼育相談
	51	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 15	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室まとめ
	52	第2回犬のしつけ教室振り返り	成果と課題
	53	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 16	応用動作の強化・しつけでゲーム・飼育相談
	54	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 17	応用動作の強化・しつけでゲーム・飼育相談
	55	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 18	応用動作の強化・しつけでゲーム・飼育相談
	56	インストラクター試験に向けて-1	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 飼育相談 試験対策-1
	57	インストラクター試験に向けて-2	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 講話発表 試験対策-2
	58	インストラクター試験に向けて-3	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 動作発表 試験対策-3
	59	インストラクター試験に向けて-4	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 (模擬試験) 試験対策-4
	60	インストラクター試験に向けて-5	テリー・ライアン イヌのしつけ方教室 インストラクター 試験対策-5

科目名	愛玩動物学(伴侶動物学)	担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (<input type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概論	伴侶動物の種類や疾病、飼育方法などを学ぶ				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	概論	エキゾチックアニマルとは・分類		
	2	ウサギ①	生理生態・品種		
	3	ウサギ②	疾病		
	4	ウサギ③	飼育方法		
	5	ハムスター①	生理生態・品種		
	6	ハムスター②	疾病		
	7	ハムスター③	飼育方法		
	8	モルモット①	生理生態・品種		
	9	モルモット②	疾病・飼育方法		
	10	フェレット①	生理生態・品種		
	11	フェレット②	疾病・飼育方法		
	12	リス・チンチラ	生理生態・品種・疾病・飼育方法		
	13	鳥類①	生理生態・品種		
	14	鳥類②	疾病・飼育方法		
15	その他動物	生理生態・品種・疾病・飼育方法			

科目名	生命倫理・動物福祉(動物福祉倫理)	担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有■ 無□		
対象学科	動物看護学科	年次・学期	2年 (■前期 ・ □後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(—)	時間(単位)	30(2)
概要	生命倫理の意義、動物福祉の基本概念を学び専門職としての理解を深める。				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	動物福祉とは	人と動物の関係		
	2	生命倫理の概念 1	生命倫理の考え方		
	3	生命倫理の概念 2	生命倫理と獣医療の関わり		
	4	生命倫理の概念 3	西欧と日本における動物観の違い		
	5	動物福祉の概念 1	動物福祉の考え方・「5つの自由」		
	6	動物福祉の概念 2	世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動		
	7	愛玩動物の福祉 1	愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題		
	8	愛玩動物の福祉 2	国内外の動物保護活動の現状と課題		
	9	愛玩動物の福祉 3	飼養放棄や殺処分問題、動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状、対策		
	10	産業動物の福祉 1	産業動物における福祉上の問題		
	11	産業動物の福祉 2	国際的な福祉基準		
	12	実験動物の福祉 1	実験動物における福祉上の問題		
	13	実験動物の福祉 2	3Rの概念と具体的方法		
	14	展示動物の福祉 1	展示動物における福祉上の問題		
15	展示動物の福祉 2	環境エンリッチメント			

科目名	ペットマッサージ		担当講師 (実務経験)	川地 ヒロ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期・後期(10)	時間(単位)	20(1)	
概要	動物の末病の状態、飼い主や、動物専門者が病気を発見し、マッサージを施すことで動物が持つ自然治癒力を引き出す動物ケアの技術を習得					
テキスト等	筆記用具					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%				
	レポート	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	中医学の理論。陰陽説 中医学の基本理論	気、血、津液、経路についても解説 tui-naに関して・今日のクイズ			
	2	アキュプレッシャーに関して テクニックの紹介	アキュプレッシャーとは何か？ マッサージの必要性、tui-naのテクニック紹介			
	3	デモンストレーション。ツボ探し ハンズオン	主要なツボ紹介と位置。各部のマッサージの仕方			
	4	温通法の紹介	お灸。温パット、レーザー治療(鍼灸)、ホットストーン 今日のクイズ			
	5	理論復習 デモンストレーション	中医学の復讐。フルボディーのマッサージ デモンストレーション、グループセッション			
	6	デモンストレーション各症状別 主要ツボの位置と効果	グループセッション 各症状のツボ確認。今日のクイズ			
	7	ハンドオン エッセイ提出	各3つのポイントを選択・デモンストレーション ペット健康維持とアキュプレッシャーの必要性			
	8	自然治療法 老犬ケア	家庭で施せる自然治療法の紹介 ディスカッション			
	9	ハンドオンテスト 筆記テスト	ショートマッサージテスト(個人)・筆記テスト			
10	安全なマッサージサポート法	寝たきり、癌からの疼痛、怪我の後遺症によるマッサージに必要な無理のないサポート法・質疑応答				

科目名	手話学		担当講師 (実務経験)	佐藤 尚行 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(10) 後期(一)	時間(単位)	20(1)	
概要	<p>聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。 外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学びます。</p> <p>1, 聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得・実践できる。 2, 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができる。</p>					
テキスト等	さっぽろの手話					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%				
	レポート	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	①聴覚障害の基礎知識 ②伝えあってみましょう	①理論講義「聴覚障害者の基礎知識」について学びます。 ②日常生活の中にあるものを身振りで伝えどのようにしたら伝わるのか身振りや表情の工夫について学習します。			
	2	あいさつや名前の 手話を覚えましょう	挨拶・名前を表す方法を学び、聴覚障害者のコミュニケーションの方法がいろいろあることを理解します。			
	3	人物の手話を覚えましょう	家族の紹介をする学習をしながら、人物の表現の基礎となる手話を学びます。			
	4	数の手話を覚えましょう	数の表し方を学習して疑問詞を使って会話練習をします。			
	5	趣味の手話を覚えましょう	趣味に関する手話を学習して、疑問詞を使った会話練習をします。			
	6	職業の手話を覚えましょう	職業に関わる手話を学習して、会話練習をします。			
	7	地名の手話を覚えましょう	住所や地名に関わる手話を学習して、会話練習をします。			
	8	①手話の基礎知識 ②自己紹介のまとめ	①理論講義「手話の基礎知識」について学びます。 ②今まで学んだ手話を活かして手話を正確に表現し意思をスムーズに伝えあえるように練習します。			
	9	時に関する手話を覚えましょう	1日や1か月の生活に関する手話を学習して、会話練習をします。			
	10	①時に関する手話を覚えましょう ②試験対策	①1年の生活に関する手話を学習して、会話練習をします。 ②今まで学習したことを活かせるように試験問題の対策をします。			

科目名	動物飼養管理学Ⅱ		担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	2年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(10) 後期(5)	時間(単位)	30(2)	
概要	動物の飼養管理に関する基本的事項を再認識しながら、1級でさらに専門的知識を高めると同時に動物愛護や人と動物の共生などの活動を担う知識を深める					
テキスト等	愛玩動物飼養管理士 教本1級 第1巻 ・ 第2巻					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%				
	レポート	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	動物愛護論Ⅱ 動物関係法令 1	日本における動物愛護運動の歴史と展望について			
	2	動物関係法令 2	伴侶(愛玩)動物、産業(畜産)動物、野生動物などの動物に人間としてどう対応するか、法律として規定について			
	3	動物の行動と社会	動物の行動と社会(生活の組織)について			
	4	犬と猫の栄養学	栄養学の基礎知識について			
	5	動物の遺伝と繁殖整理	遺伝について			
	6	動物の疾病とその予防 1	総論			
	7	動物の疾病とその予防 2	犬猫の疾病とその予防			
	8	動物の疾病とその予防 3	その他動物の疾病とその予防			
	9	動物の飼養管理と公衆衛生 1	人と動物の共通感染症とその対策			
	10	動物の飼養管理と公衆衛生 2	自然と人間			
	11	試験対策 1	模擬試験 ①			
	12	試験対策 2	模擬試験 ②			
	13	試験対策 3	模擬試験 ③			
	14	試験対策 4	模擬試験 ④			
15	試験対策 5	模擬試験 ⑤				

科目名	動物行動学Ⅱ(猫学)	担当講師 (実務経験)	藤井 美樹子 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概要	猫の起源、特徴や様々な猫種を学ぶ				
テキスト等	猫の教科書				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	授業進度は変更になる場合があります		
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	猫の進化と歴史	人とのかかわり		
	2	グルーミング演習1	猫のシャンプー技術などを学ぶ①		
	3	猫の毛色。パターン1	目の色、特徴①		
	4	猫の毛色。パターン2	目の色、特徴②		
	5	現代の家猫達1	発生型、体型①		
	6	現代の家猫達2	発生型、体型②		
	7	猫の遺伝子1	血液型、繁殖①		
	8	猫の遺伝子2	血液型、繁殖②		
	9	グルーミング演習2	猫のシャンプー技術などを学ぶ②		
	10	猫の健康1	免疫、伝染病①		
	11	猫の健康2	免疫、伝染病②		
	12	猫の特性1	感覚器①		
	13	猫の特性2	感覚器②		
	14	猫種1	世界の猫達、特徴①		
15	猫種2	世界の猫達、特徴②			

科目名	動物繁殖学	担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	2年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
	授業進行				
	1	生殖器官 1	雌の生殖器の基本構造・繁殖生理		
	2	生殖器官 2	雄の生殖器の基本構造・繁殖生理		
	3	生殖器官 3	主要な性ホルモンの名称、産生部位		
	4	性周期と交配 1	性成熟と発情徴候・排卵の仕組み		
	5	性周期と交配 2	膣細胞スメア・交配適期の決定法		
	6	妊娠と分娩 1	着床・発生・妊娠・胎子の発育		
	7	妊娠と分娩 2	妊娠期間、偽妊娠		
	8	妊娠と分娩 3	分娩と助産、帝王切開		
	9	妊娠と分娩 4	去勢・不妊手術		
	10	妊娠と分娩 5	動物ごとの違い・生殖器官		
	11	新生子管理 1	新生子のための飼養環境		
	12	新生子管理 2	初乳の意義と哺乳		
	13	新生子管理 3	新生子の発育過程		
	14	遺伝学 1	遺伝のメカニズム		
	15	遺伝学 2	さまざまな遺伝様式・遺伝子疾患・発生異常		

科目名	ペットビジネス実務		担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	2年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)	
概要	ペットビジネスの中で活用されるディスプレイやポップなどの技法を身に着ける					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	%				
	小テスト・技術力・作品	60%				
	レポート	%				
	授業態度	20%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	啓発ポスター制作 1	各専門分野における啓発ポスターを制作する ①			
	2	啓発ポスター制作 2	各専門分野における啓発ポスターを制作する ②			
	3	啓発ポスター制作 3	各専門分野における啓発ポスターを制作する ③			
	4	啓発ポスター制作 4	各専門分野における啓発ポスターを制作する ④			
	5	啓発ポスター制作 5	各専門分野における啓発ポスターを制作する ⑤			
	6	啓発ポスター制作 6	各専門分野における啓発ポスターを制作する ⑥			
	7	イベント企画 1	クリスマスのディスプレイ ①			
	8	イベント企画 2	クリスマスのディスプレイ ②			
	9	イベント企画 3	クリスマスのディスプレイ ③			
	10	イベント企画 4	クリスマスのディスプレイ ④			
	11	イベント企画 5	クリスマスのディスプレイ ⑤			
	12	服飾制作 1	アクセサリ作り ①			
	13	服飾制作 2	アクセサリ作り ②			
	14	パッケージデザイン 1	パッケージデザイン作成			
15	パッケージデザイン 2	パッケージ写真撮影				

科目名	トリミング応用実習		担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 ・ 有壁 和		
対象学科	動物福祉学科		年次学期	2年 (■前期 ■後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 ■実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(60) 後期(60)	時間(単位)	240(8)	
概要	一人で一頭の犬の全身カットを仕上げる技術を身につける					
テキスト等	トリミング学テキスト I トリミング器具					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト技術力作品 レポート	20%				
	授業態度	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	1		
	2	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	2		
	3	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	3		
	4	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	4		
	5	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	5		
	6	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	6		
	7	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	7		
	8	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	8		
	9	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	9		
	10	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	10		
	11	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	11		
	12	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	12		
	13	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	13		
	14	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	14		
15	応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット	15			

	講義テーマ	講義内容
授業進行	16 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 16
	17 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 17
	18 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 18
	19 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 19
	20 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 20
	21 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 21
	22 応用実習 ステップ1	時間配分 四肢、肛門回り、後躯のカット 22
	23 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 1
	24 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 2
	25 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 3
	26 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 4
	27 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 5
	28 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 6
	29 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 7
	30 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 8
	31 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 9
	32 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 10
	33 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 11
	34 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 12
	35 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 13
	36 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 14
	37 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 15
	38 応用実習 ステップ2	時間配分 中躯のカット 16

	講義テーマ	講義内容
授業進行	39 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 1
	40 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 2
	41 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 3
	42 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 4
	43 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 5
	44 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 6
	45 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 7
	46 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 8
	47 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 9
	48 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 10
	49 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 11
	50 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 12
	51 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 13
	52 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 14
	53 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 15
	54 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 16
	55 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 17
	56 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 18
	57 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 19
	58 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 20
	59 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 21
	60 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 22
	61 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 23

	講義テーマ	講義内容
授業進行	62 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 24
	63 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 25
	64 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 27
	65 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 28
	66 応用実習 ステップ3	時間配分 全身カット(前駆頭部耳背線尾) 29
	67 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 1
	68 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 2
	69 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 3
	70 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 4
	71 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 5
	72 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 6
	73 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 7
	74 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 8
	75 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 9
	76 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 10
	77 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 11
	78 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(器具使用法) 12
	79 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 1
	80 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 2
	81 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 3
82 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 4	
83 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 5	
84 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上がりに) 6	

	講義テーマ	講義内容
授業進行	85 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 7
	86 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 8
	87 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 9
	88 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 10
	89 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 11
	90 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(被毛の仕上げ) 12
	91 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 1
	92 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 2
	93 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 3
	94 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 4
	95 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 5
	96 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 6
	97 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 7
	98 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 8
	99 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 9
	100 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 10
	101 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 11
	102 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(汚れる毛の処理) 12
	103 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 1
104 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 2	
105 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 3	
106 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 4	
107 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 5	

	講義テーマ	講義内容
授業進行	108 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 6
	109 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 7
	110 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 8
	111 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 9
	112 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 10
	113 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 11
	114 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 12
	115 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 13
	116 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 14
	117 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 15
	118 応用実習 ステップ4	時間配分 総仕上げ(シンメトリー) 16
	119 総括	全体確認①
	120 総括	全体確認②

科目名	学外現場実習 I		担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	1年 (<input type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(35)	時間(単位)	70(2)	
概要	学校で修得した知識や技術を基に、技術者としての役割や責任を理解し、実務能力を修得する					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	実習先での評価を基に総合的に評価 実習前オリエンテーションの実施 施設により実習内容は変更になる場合があります			
	定期試験	%				
	小テスト・技術力・作品	%				
	レポート	50%				
	授業態度	30%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	2		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	3		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	4		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	5		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	6	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	7		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	8		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	9		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	10		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	11	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	12		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	13		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	14		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	15		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	16	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	17		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	18		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	19		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	20		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	21	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	22		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	23		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	24		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	25		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	26	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	27		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	28		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	29		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
	30		1日の振り返り(自宅にてレポート作成)			
	31	企業実習	企業における専門職の役割を理解する			
	32		企業を見学し、施設や設備を理解する			
	33		愛玩動物を適正に管理する方法について理解する			
	34		企業の衛生管理・環境整備の必要性を理解する			
35	1日の振り返り(自宅にてレポート作成)					

科目名	介護職員初任者研修	担当講師 (実務経験)	佐渡 夏子 有 ■ 無 □		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(61)	時間(単位)	122(8)
概要	高齢者や障害者のための介護の知識・技術を習得し、医療・高齢者・障害者施設等において、人と動物を結びつける動物介在従事者の基礎を理解する。				
テキスト等	介護職員初任者研修テキスト全2巻セット(中央法規出版)				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	その他(授業態度・出席状況など授業に対する姿勢を評価)		
	定期試験	60%			
	レポート・技術力・作品 小テスト	20%			
	授業態度	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	多様なサービスの理解 1	介護保険サービスと保険外サービスについて①		
	2	多様なサービスの理解 2	介護保険サービスと保険外サービスについて②		
	3	介護職の仕事内容や働く現場の理解 1	サービスを提供する現場の理解①		
	4	介護職の仕事内容や働く現場の理解 2	サービスを提供する現場の理解②		
	5	介護職の安全 1	介護職の心身の健康管理と感染予防①		
	6	介護職の安全 2	介護職の心身の健康管理と感染予防②		
	7	自立に向けた介護	自立支援と介護予防について		
	8	介護におけるチームのコミュニケーション	介護現場の記録における情報の共有化		
	9	医療との連携とリハビリテーション	医療行為と介護、リハビリテーションの理念		
	10	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	身体障害、知的障害、精神障害についての理解		
	11	介護におけるチームのコミュニケーション	報告連絡相談とコミュニケーションを促す環境の理解		
	12	老化に伴うところとからだの変化と日常 1	老年期の発達と老化にともなう心身の変化・特徴①		
	13	老化に伴うところとからだの変化と日常 2	老年期の発達と老化にともなう心身の変化・特徴②		
	14	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 1	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴と対応①		
15	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 2	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴と対応①			

	講義テーマ	講義内容
授業進行	16 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 1	人体の構造、骨・関節・筋に関する基礎的理解、ボディメカニクス①
	17 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 2	人体の構造、骨・関節・筋に関する基礎的理解、ボディメカニクス②
	18 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 3	人体の構造、骨・関節・筋に関する基礎的理解、ボディメカニクス③
	19 生活と家事 1	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援①
	20 生活と家事 2	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援②
	21 生活と家事 3	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援③
	22 快適な居住環境整備と介護 1	快適な居住環境に関する基礎知識と福祉用具の活用①
	23 快適な居住環境整備と介護 2	快適な居住環境に関する基礎知識と福祉用具の活用②
	24 快適な居住環境整備と介護 3	快適な居住環境に関する基礎知識と福祉用具の活用③
	25 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	睡眠の基礎知識、睡眠環境整備と用具の活用方法(実技演習)①
	26 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	睡眠の基礎知識、睡眠環境整備と用具の活用方法(実技演習)②
	27 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	睡眠の基礎知識、睡眠環境整備と用具の活用方法(実技演習)③
	28 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	睡眠の基礎知識、睡眠環境整備と用具の活用方法(実技演習)④
	29 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	移動・移乗の基礎知識、負担の少ない支援方法(実技演習)①
	30 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	移動・移乗の基礎知識、負担の少ない支援方法(実技演習)②
	31 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	移動・移乗の基礎知識、負担の少ない支援方法(実技演習)③
	32 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	移動・移乗の基礎知識、負担の少ない支援方法(実技演習)④
	33 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	整容の基礎知識、静養の支援技術(実技演習)①
	34 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	整容の基礎知識、静養の支援技術(実技演習)②
	35 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	整容の基礎知識、静養の支援技術(実技演習)③
	36 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	整容の基礎知識、静養の支援技術(実技演習)④
	37 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	食事の基礎知識、楽しい食事の支援(実技演習)①
	38 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	食事の基礎知識、楽しい食事の支援(実技演習)②

	講義テーマ	講義内容
授業進行	39 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	食事の基礎知識、楽しい食事の支援(実技演習)③
	40 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	食事の基礎知識、楽しい食事の支援(実技演習)④
	41 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	入浴・清潔保持に関する基礎知識、支援方法(実技演習)①
	42 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	入浴・清潔保持に関する基礎知識、支援方法(実技演習)②
	43 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	入浴・清潔保持に関する基礎知識、支援方法(実技演習)③
	44 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	入浴・清潔保持に関する基礎知識、支援方法(実技演習)④
	45 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 1	排泄の基礎知識、排泄用具の活用と支援(実技演習)①
	46 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 2	排泄の基礎知識、排泄用具の活用と支援(実技演習)②
	47 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 3	排泄の基礎知識、排泄用具の活用と支援(実技演習)③
	48 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4	排泄の基礎知識、排泄用具の活用と支援(実技演習)④
	49 介護過程の基礎的理解 1	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ①
	50 介護過程の基礎的理解 2	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ②
	51 介護過程の基礎的理解 3	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ③
	52 介護過程の基礎的理解 4	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ④
	53 総合生活支援技術演習 1	事例による展開(支援の提供を考える)①
	54 総合生活支援技術演習 2	事例による展開(支援の提供を考える)②
	55 総合生活支援技術演習 3	事例による展開(支援の提供を考える)③
	56 総合生活支援技術演習 4	事例による展開(支援の提供を考える)④
	57 快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識と福祉用具の活用
	58 振り返り 1	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと①
	59 振り返り 2	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと①
60 振り返り 3	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと①	
61 修了評価	資格取得のための修了試験	

科目名	ビジネスマナー学	担当講師 (実務経験)	設楽 幸子 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (■前期 ・ □後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(一)	時間(単位)	30(2)
概要	社会人へ踏み出すために必要なビジネスマナーの基本と就職活動へ向けての自己理解と履歴書の書き方、面接時の対応を学ぶ				
テキスト等	動物病院スタッフを目指す学生のためのビジネスマナーテキスト				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品	20%			
	授業態度				
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	社会へ踏み出すということ	「学生と社会人の違い」や「自立する」ということについて考え、社会へ踏み出すとはどういうことかを学ぶ		
	2	社会人として身につけたいビジネスマナーの基本	動物医療に関わるスタッフに求められるビジネスマナーの大切さを知り、社会へ踏み出すためのビジネスマナーの基本を学ぶ		
	3	社会人として身につけたいビジネスマナーの基本	社会へ踏み出すときにみについておきたいビジネスマナーの基本(あいさつ、表情、立ち居振る舞い)について学ぶ		
	4	社会人として身につけたいビジネスマナーの基本	ビジネスマナーの基本(身だしなみ・言葉づかい/敬語)について学ぶ		
	5	社会人として身につけたいビジネスマナーの基本	言葉づかい/敬語の演習問題にチャレンジ		
	6	電話対応の基本	電話の受け方、かけ方を学ぶ		
	7	電話対応の基本	電話の受け方、かけ方の演習問題にチャレンジ		
	8	クレーム対応	受付及び電話におけるクレーム対応の基本を学ぶ		
	9	クレーム対応	受付及び電話におけるクレーム対応の演習問題にチャレンジ		
	10	社会人としてのコミュニケーション	良好な人間関係を築くための、話の聞き方・話し方・伝え方の基本を学ぶ		
	11	社会人としてのコミュニケーション	話の聞き方・話し方・伝え方の演習問題にチャレンジ		
	12	就職活動へ向けてのキャリアデザイン	就職活動のためのキャリアデザインとは何か、希望の道へ進むための準備(自己理解)は何かを学ぶ		
	13	就職活動へ向けてのキャリアデザイン	魅せる履歴書の書き方のポイントを学ぶ		
	14	就職活動へ向けてのキャリアデザイン	就職活動を成功させる面接攻略法を学ぶ		
15	全体授業のまとめ	振り返り			

科目名	公衆衛生学	担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概要					
テキスト等	コンパニオンアニマルの健康管理学				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	日常の健康管理 1	全身の手入れ		
	2	日常の健康管理 2	口腔衛生		
	3	衛生管理 1	消毒 ・ 滅菌法		
	4	衛生管理 2	院内感染 ・ ペットショップ内感染		
	5	衛生管理 3	犬と猫のワクチンの種類と特徴		
	6	衛生管理 4	ワクチネーション・副作用		
	7	感染症 1	感染症の種類		
	8	感染症 2	原虫感染症		
	9	感染症 3	真菌感染症		
	10	感染症 4	細菌感染症		
	11	感染症 5	ウイルス感染症		
	12	人獣共通感染症 1	人と動物が関係する人獣共通感染症①		
	13	人獣共通感染症 2	人と動物が関係する人獣共通感染症②		
	14	応急処置 1	外傷、その他の応急処置		
15	応急処置 2	中毒の応急処置、心肺蘇生法			

科目名	動物栄養学	担当講師 (実務経験)	池田 麻美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15)後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	犬猫に必要な栄養を理解しペットフード給与量での栄養管理ができるような知識を学ぶ				
テキスト等	コンパニオンアニマルの健康管理学				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品	20%			
	授業態度				
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	基礎栄養	栄養とは何か、6大栄養素・消化と吸収		
	2	栄養各論①	たんぱく質・炭水化物・脂質		
	3	栄養各論②	ビタミン・ミネラル・水		
	4	食性の違い①	犬と猫の違い		
	5	食性の違い②	嗜好性の決定・給与方法		
	6	ライフステージ①	哺乳・離乳・成長期		
	7	ライフステージ②	妊娠・授乳期		
	8	ライフステージ③	維持期・老齢期		
	9	栄養要求量①	BCS評価・要求量とは何か		
	10	栄養要求量②	エネルギー要求量計算法		
	11	ペットフード学①	ペットフードの概念、歴史		
	12	ペットフード学②	目的別食種類・ラベル表示・ペットフード安全法		
	13	ペットフード学③	特別療法食		
	14	手作り食①	食べてはいけない食べ物・観葉植物		
15	手作り食②	レシピ作成・カロリー計算			

科目名	動物看護学	担当講師 (実務経験)	伊藤 航 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	動物の基礎から動物病院での応用実践まで、関連性を予測し実施することができる。				
テキスト等	配布資料				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	授業内容により実習になる場合があります。		
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品	20%			
	授業態度				
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	看護技術の基礎知識 1	身体検査①(TPR、BCS、全身検査)		
	2	看護技術の基礎知識 2	身体検査②(TPR、BCS、全身検査)		
	3	看護技術の基礎知識 3	身体検査③(保定法)		
	4	看護技術の基礎知識 4	カルテ作成①(カルテ用語)		
	5	看護技術の基礎知識 5	カルテ作成②(問診)		
	6	臨床検査技術の基礎知識 1	動物病院で行われる様々な検査		
	7	臨床検査技術の基礎知識 2	各種検査機材の取り扱い		
	8	臨床検査技術の基礎知識 3	糞便検査①(目的、検査方法)		
	9	臨床検査技術の基礎知識 4	糞便検査②(検査結果を読み取る)		
	10	臨床検査技術の基礎知識 5	尿検査①(目的、検査方法)		
	11	臨床検査技術の基礎知識 6	尿検査②(検査結果を読み取る)		
	12	臨床検査技術の基礎知識 7	血液検査①(目的、検査方法)		
	13	臨床検査技術の基礎知識 8	血液検査②(検査結果を読み取る)		
	14	手術室看護の基礎知識 1	器具の名称		
15	手術室看護の基礎知識 2	手術の一連の流れ			

科目名	家庭犬適性飼養実習 I -A		担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(30)	時間(単位)	90(3)	
概要	犬はどんな動物なのかについて基本動作から応用動作まで学ぶ					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 レポート	20%				
	授業態度	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	イヌの管理-1	犬の管理における注意点について(健康チェック)			
	2	イヌの管理-2	犬の管理における注意点について(リードの使用法)			
	3	イヌの管理-3	犬の管理における注意点について(保管)			
	4	イヌの管理-4	犬の管理における注意点について(排泄)			
	5	イヌの管理-5	犬の管理における注意点について(散歩)			
	6	イヌの管理-6	犬の受け渡しにおける注意点について(飼い主対応)			
	7	イヌの基本動作-1	トレーニングに向けて指示の伝え方について			
	8	イヌの基本動作-2	指示の伝え方アイコンタクトについて			
	9	イヌの基本動作-3	オスワリ、マテの教え方について			
	10	イヌの基本動作-4	フセ、オイデの教え方について			
	11	イヌの基本動作-5	脚則歩行の教え方について(前半)			
	12	イヌの基本動作-6	脚則歩行の教え方について(後半)			
	13	イヌの基本動作-7	「イヌの散歩と運動」に対する考え方について			
	14	イヌの応用動作-1	人の動きに合わせて歩かせるための矯正レッスンについて			
15	イヌの応用動作-2	上手なしかり方・罰とは何か・ご褒美の与え方について(前半)				

	講義テーマ	講義内容
授業進行	16 イヌの応用動作-3	上手なしかり方・罰とは何か・ご褒美の与え方について(後半)
	17 イヌの応用動作-4	「ごほうび」とは・拘束制止・名前を呼ぶタイミングについて(前半)
	18 イヌの応用動作-5	「ごほうび」とは・拘束制止・名前を呼ぶタイミングについて(後半)
	19 イヌの応用動作-6	ハンドリングとボディコントロールについて(前半)
	20 イヌの応用動作-7	ハンドリングとボディコントロールについて(後半)
	21 イヌの応用動作-8	犬の基本動作・応用動作発表
	22 イヌの実践動作-1	オスワリから脚則歩行の基本動作発表(前半)
	23 イヌの実践動作-2	オスワリから脚則歩行の基本動作発表(後半)
	24 イヌの実践動作-3	オスワリから脚則歩行の応用動作発表(前半)
	25 イヌの実践動作-4	オスワリから脚則歩行の応用動作発表(後半)
	26 イヌの実践動作-5	オスワリから脚則歩行での制御の基本動作発表(前半)
	27 イヌの実践動作-6	オスワリから脚則歩行での制御の基本動作発表(後半)
	28 イヌの実践動作-7	オスワリから脚則歩行での制御の応用動作発表(前半)
	29 イヌの実践動作-8	オスワリから脚則歩行での制御の応用動作発表(後半)
	30 イヌの実践動作-9	多頭犬の制御について動作発表(前半)
	31 イヌの実践動作-10	多頭犬の制御について動作発表(後半)
	32 イヌの問題行動-1	犬の問題行動の対応(排泄とマーキング)
	33 イヌの問題行動-2	犬の問題行動の対応(吠え)
	34 イヌの問題行動-3	犬の問題行動の対応(破壊行動)
	35 イヌの問題行動-4	犬の問題行動の対応(逃走)
	36 イヌの問題行動-5	犬の問題行動の対応(不安・恐怖)
	37 パピークラス、しつけ教室-1	パピークラス、しつけ教室の目的 1
	38 パピークラス、しつけ教室-2	パピークラス、しつけ教室の目的 2

		講義テーマ	講義内容
授業進行	39	パピークラス、しつけ教室-3	パピークラス、しつけ教室の運営 1
	40	パピークラス、しつけ教室-4	パピークラス、しつけ教室の運営 2
	41	パピークラス、しつけ教室-5	パピークラス、しつけ教室の準備 1
	42	パピークラス、しつけ教室-6	パピークラス、しつけ教室の準備 2
	43	パピークラス、しつけ教室-7	パピークラス、しつけ教室の実践(ゲーム) 1
	44	パピークラス、しつけ教室-8	パピークラス、しつけ教室の実践(ゲーム) 2
	45	パピークラス、しつけ教室-9	パピークラス、しつけ教室の実践(ゲーム) 3

科目名	家庭犬適性飼養学 I-A		担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)	
概要	パピークラスしつけ教室の講和と生体の動作を学びます					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合 (%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 レポート	20%				
	授業態度	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ	講義内容			
	1	イヌの基本動作-1	座学ガイダンス・イヌの生活について			
	2	イヌの基本動作-2	犬の健康管理について			
	3	イヌの基本動作-3	オスワリ、マテの教え方、講話について			
	4	イヌの基本動作-4	フセ、オイデの教え方、講話について			
	5	イヌの基本動作-5	脚則歩行の教え方、講話について(前半)			
	6	イヌの基本動作-6	脚則歩行の教え方、講話について(後半)			
	7	イヌの基本動作-7	「イヌの散歩と運動」に対する考え方、講話について			
	8	イヌの応用動作-1	人の動きに合わせて歩かせるための矯正レッスン、講話について			
	9	イヌの応用動作-2	上手なしかり方・罰とは何か・ご褒美の与え方、講話について			
	10	イヌの応用動作-3	「ごほうび」とは・拘束制止・名前を呼ぶタイミング、講話について			
	11	イヌの応用動作-4	ハンドリングとボディコントロール、講話について			
	12	イヌの応用動作-5	問題行動への対応、講和について(前半)			
	13	イヌの応用動作-6	問題行動への対応、講和について(後半)			
	14	イヌの特性-1	飼育環境や生活スタイルに関する犬種別適正(前半)			
15	イヌの特性-2	飼育環境や生活スタイルに関する犬種別適正(後半)				

科目名	人と動物の関係学	担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(一) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する				
テキスト等					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	人間と動物の関わり	動物の飼養・利用の歴史		
	2	人間と動物の関わり	欧米と日本の動物観、動物との関わりとの相違		
	3	人間と動物の関わり	動物の飼養と利用の現状		
	4	人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識		
	5	人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊(アニマル・ホーディング)		
	6	人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情		
	7	動物介在療法の活動と記録の活用	動物介在療法の活動と記録の活用		
	8	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響		
	9	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容		
	10	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生的適正、行動学的適正		
	11	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	犬種選定、衛生管理と使用目的に沿った訓練、活動中の制御、事故防止		
	12	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育への関わり(事例)		
	13	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育への関わり(事例)		
	14	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育への関わり(事例)		
15	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	学校飼育動物の目的や実態への関わり			

科目名	動物飼養管理学 I	担当講師 (実務経験)	池田麻美・立石淳子・長崎幸恵・有壁和 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (■前期 ・ ■後期)		
授業形態	■講義 □実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(10) 後期(5)	時間(単位)	30(2)
概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法				
テキスト等	愛玩動物飼養管理士 教本2級 第1巻 第2巻				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	授業進度は変更になる場合があります		
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	歴史と品種	犬の歴史と代表的な種類、その活用や被毛の手入れ		
	2	歴史と品種	血統と血統書		
	3	動物の基本的な取扱い	基本的グルーミングの目的・方法		
	4	愛玩動物の飼養管理	代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)①		
	5	愛玩動物の飼養管理	代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)②		
	6	愛玩動物の飼養管理	愛玩鳥の適切な飼養管理方法(飼養環境、体調管理など)		
	7	愛玩動物の飼養管理	犬の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)		
	8	愛玩動物の飼養管理	猫の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)		
	9	動物の基本的な取扱い	動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義、適切な飼養環境やストレスの緩和法		
	10	動物関係法令 I	動物の愛護及び管理に関する法律について		
	11	動物関係法令 I	動物の愛護及び管理に関する法律について		
	12	使役動物	使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉		
	13	使役動物	補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状、役割と育成、適正		
	14	使役動物	その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など)の種類と特徴及び現状		
15	愛玩動物飼養管理士試験対策	模擬試験			

科目名	トリミング学 I	担当講師 (実務経験)	長崎 幸恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	トリミングの目的や必要性を理解する				
テキスト等	トリミングテキスト I・トリミング器具				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合 (%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 レポート	20%			
	授業態度	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	グルーミングとは	グルーミングの意義・目的・心構え		
	2	実習器具の説明	実習器具の名称・種類・形・使用目的		
	3	実習器具の保管・消毒法	実習器具の正しい手入れ、保管、消毒法		
	4	トリミング実習時の身だしなみ	身だしなみのチェックポイント		
	5	トリミング実習の流れ	トリミング実習の流れ、注意事項		
	6	掃除・消毒	トリミング実習における衛生管理		
	7	トリミング用語	トリミングにおける専門用語を知る		
	8	グルーミングの手順	グルーミング実習における基本事項		
	9	応急処置	応急処置の意義		
	10	犬の体の基礎知識 1	犬体名称		
	11	犬の心理・感覚	犬の行動を理解する		
	12	犬の歯	犬の口腔内、お手入れについて		
	13	犬の皮膚・被毛	皮膚・被毛の構造と生理		
	14	犬の体の基礎知識 2	犬の毛色・狼指・狼爪・断耳・断尾		
15	犬種の特徴	代表的な犬種の出産地・被毛の特徴・毛色・性格を理解する			

科目名	動物行動学 I (犬学)		担当講師 (実務経験)	名取 裕憲 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科		年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)	
概要	犬の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する					
テキスト等						
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)				
	定期試験	60%				
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%				
	レポート	%				
	出席状況	20%				
授業進行		講義テーマ		講義内容		
	1	動物行動学の基礎 1		動物行動学の4つの問い(適応・進化・機構・発達・行動の進化と適応、家畜化		
	2	動物行動学の基礎 2		生得的行動と学習行動・脳による行動制御		
	3	個体維持行動 1		摂食及び飲水行動・排泄行動		
	4	個体維持行動 2		身づくろい行動・護身行動		
	5	発達過程と社会行動 1		発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と 各時期の行動学的特徴・生殖活動(性行動・母性行動)		
	6	発達過程と社会行動 2		コミュニケーション行動・敵対行動と親和的行動		
	7	学習理論 1		行動形成・馴化と感作		
	8	学習理論 2		古典的条件づけとオペラント条件づけ・学習に影響を与える因子		
	9	学習理論 3		基本的なトレーニング法 (トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)		
	10	問題行動 1		問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)		
	11	問題行動 2		攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法		
	12	問題行動 3		恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法		
	13	問題行動 4		不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法		
	14	問題行動 5		高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応		
15	行動治療		行動診療の進め方・行動修正法と環境修正法の種類と適応 行動治療における薬物療法			

科目名	動物形態機能学 I	担当講師 (実務経験)	和田 好洋 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(15) 後期(-)	時間(単位)	30(2)
概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の両面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解する				
テキスト等	愛玩動物飼養管理士2級教本第1巻				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席状況	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	体の基本の仕組み 1	体の成り立ち		
	2	体の基本の仕組み 2	体を包むもの		
	3	体の基本の仕組み 3	体を支え、動かすもの		
	4	栄養を取り入れる 1	消化器系と消化酵素・食べ物の通り道		
	5	栄養を取り入れる 2	消化液・吸収された栄養分の使われ方		
	6	酸素を取り入れる 1	外呼吸と内呼吸・空気を体の奥に運び込む		
	7	酸素を取り入れる 2	血液中を流れるもの・リンパ管		
	8	酸素を取り入れる 3	心臓(血液を送り出す)		
	9	老廃物の排出、異物の撃退と解毒	腎臓(老廃物の排出)・肝臓(異物の撃退と解毒)		
	10	感覚器 1	視覚・聴覚・平衡感覚		
	11	感覚器 2	味覚・嗅覚・皮膚感覚		
	12	体内の情報伝達 1	神経の働き		
	13	体内の情報伝達 2	中枢神経系・末梢神経系		
	14	子どもを産み育てる 1	生殖器・乳腺・ホルモン		
15	子どもを産み育てる 2	雄、雌の生殖器			

科目名	家庭犬適性飼養学 I-B	担当講師 (実務経験)	新出 陽子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (<input type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期)		
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(2)
概要	訓練士に求められる技術や知識について幅広く学ぶ				
テキスト等	JKC基本訓練マニュアル				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品 授業態度	20%			
	レポート	%			
	出席率	20%			
	授業進行	講義テーマ			
	1	授業の説明	授業内容の説明等		
	2	訓練士の仕事について	業務内容		
	3	訓練の必要性	訓練の必要性		
	4	しつけ、訓練	「しつけ」「訓練」とは		
	5	訓練用語	訓練で使う用語と意味		
	6	犬とはどんな動物か	犬の本能、習性、社会構造		
	7	しつけ訓練の目的 1	しつけ訓練する目的		
	8	しつけ訓練の目的 2	しつけ訓練の考え方		
	9	しつけ訓練の目的 3	しつけ訓練の時期、時間		
	10	社会化の重要性	社会化について		
	11	日常生活で気を付けること	犬との生活の中で気を付けること		
	12	犬種グループと特徴 1	分類①		
	13	犬種グループと特徴 2	分類②		
	14	災害への備え	犬を守るためにしておくの良いこと		
	15	定期試験対策	まとめ		

科目名	家庭犬適性飼養実習 I-B	担当講師 (実務経験)	新出 陽子 有■ 無□		
対象学科	動物福祉学科	年次・学期	1年 (□前期 ・ ■後期)		
授業形態	□講義 ■実習	授業コマ数(1コマ90分)	前期(-) 後期(15)	時間(単位)	30(1)
概要	基本的な訓練技術を身につける				
テキスト等	実習着着用				
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)			
	定期試験	60%			
	小テスト・技術力・作品	%			
	授業態度				
	レポート	20%			
	出席率	20%			
授業進行		講義テーマ	講義内容		
	1	訓練デモ、説明	実技授業時のルール等説明		
	2	訓練練習&説明 1	実践的な訓練①		
	3	訓練練習&説明 2	実践的な訓練②		
	4	訓練練習&説明 3	実践的な訓練③		
	5	訓練練習&説明 4	実践的な訓練④		
	6	訓練練習&説明 5	実践的な訓練⑤		
	7	訓練練習&説明 6	実践的な訓練⑥		
	8	訓練練習&説明 7	実践的な訓練⑦		
	9	訓練練習&説明 8	実践的な訓練⑧		
	10	訓練練習&説明 9	実践的な訓練⑨		
	11	訓練練習&説明 10	実践的な訓練⑩		
	12	訓練練習&説明 11	実践的な訓練⑪		
	13	訓練練習&説明 12	実践的な訓練⑫		
	14	訓練練習&説明 13	実践的な訓練⑬		
	15	定期試験対策	後期まとめ		